

●デジタル入力:同軸2系統(RCA×1、BNC×1)、バランス2系統(XLR)、光1系統(TOS)、USB1系統(Bタイプ)~384kHz、DSD) ●アナログ出力:アンバランス1系統(RCA)、バランス1系統(XLR) ●使用真空管: JAN5963×1 ●寸法/重量:本体・W277×H75×D350mm/5kg、電源部・W141×H43×D94mm/1kg ●備考:写真、価格は電源部付きの標準モデル。他にパワーサプライレスモデル(¥2,650,000)、マルチパワーサプライのMPS付モデル(¥3,364,000)あり。オプションでHD DAC専用のVFSボード発売予定あり。バランス出力HOT=2番ピン ●問合せ先:株式会社太陽インターナショナル ☎03(6225)2777

ナグラ
HD DAC
¥2,909,000



クリーミーで密度感ある音。音楽が豊かにスムーズに鳴る
出力段に真空管を搭載した、USB入力装備の新型D/Aコンバーター

傅信幸

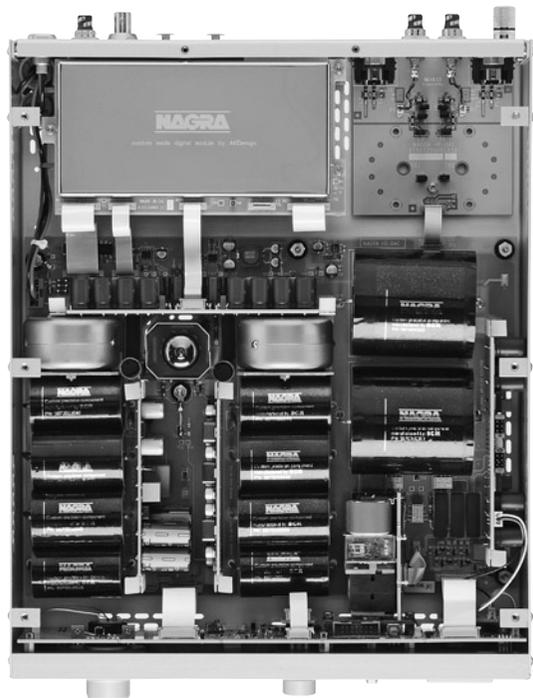
愛着を持てる程よい大きさ、繊細にして緻密な仕上がり、指先に吸い付くような操作性の快感——ナグラ(NAGRA)のオーディオ機器にしかないテイストに魅了される。年季を積んだオーディオファイルであれば、ナグラのポータブル型のテープレコーダーをご存じだろう。手探りでも使える操作性と、小口径リールが標準である凝縮感……。それを家庭用Hi-Endオーディオ機器に採り入れたのだ。

スイスで1951年に創業したナグラは、近年、M&Aを進めてデータ通信のセキュリティを専門とした3千人規模の大会社になっている。たとえばダボス会議のセキュリティシステム、ヨーロッパの衛星放送のアクセスコード管理は、ナグラが担当しているそうだ。オーディオで起業した創業者の意志を受け継いで、オーディオ部門は独立し、40人規模で製品を開発・製造、過去の機器の修理も担当している。ちなみに創業者の娘さんが社長だそうである。

本機は3シャシ構成のD/Aコンバーターである。多彩で複数の入力に対応し、もちろんUSB入力を装備している。デジタル回路は専門の外部組織に設計依頼をした(AKデザイン)。内部写真をご覧いただくと、リアパネル近くにあるモジュールがそのデジタル回路だ。多数の電源回路がぎっしりと搭載されている。さらに電源トランスやケミコンは



PCMは24ビット/384kHz、DSDは128(ダブルフォーマット)に対応。USB入力の精度維持にもとりわけ留意されているという。リアパネル右端にはデジタル部とアナログ部で独立した電源入力がある。



シャーシ内部の大半は電源回路(レギュレーター)で占められる。電源部に多用されるコンデンサーはナグラオリジナル仕様。写真左上に見えるシールドされた部分がデジタル信号処理回路。その前方には真空管を使用したアナログ回路を配置。将来的に、オプションで右上の出力基板上にバランス出力用トランスが搭載可能になる予定。



別で、アナログ回路用とデジタル回路用との二筐体になっている(別売で強化電源がある)。アナログ回路はもちろんナグラ独自でかつ入魂の設計だ。

出力段に双三極管を使っており出力はシングルエンドである。オプションのオーディオトランスを内蔵することでバランス出力対応となるが、そのトランスがまだ準備されていないためシングルエンド接続で試聴した。CD再生はトランスポートにアキュフェーズDPP900を使用したS/PDIF接続だが、本機内部でデジタル信号はダブルDSDフォーマットに変換され処理されるという。

ソフトでクリーミー、穏やかでふっくらした音である。超ワイドレンジ感ではなく程よい帯域バランス。シンセサイザーベースの超低音がブリブリ唸るとか、いかにもデジタル臭い高域のエッジがシャキシャキでもなく、ねっとりとした密度感がある音なので、音楽が豊かでスムーズに耳に入ってくる。音場の左右の拡がりはずこし狭めだが、そのかわりに音像はたつぷりと厚い。音色も音像も豊かであり、絶対に痩せるといえないのである。High Resolution音源をUSBで入力して聴いても、繊細な空気感は増すものの、やはりふくよかで暖かみのある音だ。わたしは同社のプリアンプやパワーアンプと共通した音のテイストを感じた。なお本機はボリュウム機能がありリモコンも使える。パワーアンプヘダイレクト接続を試した。プリアンプとして高いゲインを持っているわけではないので、ボリュウムの回転角は時計の文字盤で言うところと12時や14時へと大きく上がるが、十分に実用になる。